

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

3 公 民

<目次>

I	「指導と評価の年間計画・評価規準の作成の手引き」	P 1～2
II	「指導と評価の年間計画」(倫理) <例>	P 3～5
III	「評価規準と単元計画」(倫理) <例>	P 6～12
IV	「学習指導案」(倫理) <例>	P 13～14

I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイント、評価方法、評価規準も含めて記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

○科目全体の「目標」「評価の観点の趣旨」を示す。

- ・科目全体の目標…学習指導要領に示す当該科目の目標
- ・科目全体の評価の観点及びその趣旨
…「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

○内容のまとめりごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・内容のまとめりごとの目標
…学習指導要領の「内容」の(1)(2) …の大項目ごとの目標を記す。
- ・内容のまとめりごとの評価規準
…内容のまとめりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」参照

※「内容のまとめり」について

- ・倫理においては、学習指導要領の内容（1）については大項目を内容のまとめりとし、内容（2）、（3）については中項目（例：「（2）ア 人間としての自覚」）の中項目を内容のまとめりとするのが考えられる。
- ・「内容のまとめり」は、ほとんどの教科書の「章」に該当するものであるが、学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく「章」とは必ずしも一致しない場合がある。

◎単元ごとの「目標」「評価規準」を示す。

- ・単元ごとの目標…実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいを基に記載する。
- ・単元ごとの評価規準
…単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとめりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

※「単元」とは、ほとんどの教科書の「節」に該当するものである。

◎指導と評価の計画に、「ねらい、MQ」「学習活動」「評価の観点」「評価規準等」を示す。

- ・ねらい、MQ …授業におけるねらいと、主とする発問を示す。
- ・学習活動 …主な学習活動を示す。
- ・評価の観点 …4観点のうち、記録に残す評価など、授業における主な評価の観点を示す。
- ・評価規準等 …「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。

< 単元ごとの指導と評価の計画例 >

※国立教育政策研究所が作成している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 公民）」を参考に願います。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html>

単元の名前 「〇〇〇〇」

□単元の目標（学習指導要領の内容を単元の構成に合わせて一部修正して記述）

〇〇・・・・・・・・・・。

□単元の評価規準（評価規準の設定例を参考に作成）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。	①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。	①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。	①〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。 ②〇〇・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・。

□指導と評価の計画

●は記録に残す評価

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
第 一 次 （ 1 時 間 扱 い）	1 〇〇〇〇 【ねらい】 〇〇・・・・・・・・・・。 【MQ】 〇〇・・・・・・・・・・。					
	・・・・・・・・・・。			●		②〇〇・・・・・・・・・・。

※「評価規準等」の欄の○印の番号は、「□単元の評価規準」における各観点別の評価規準の番号と一致している。

年間学習指導計画 倫理（第2学年）

科名	公民科（倫理）	教科書名	高校倫理	発行者	実教出版	単位数	2
目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。						
到達目標に向けての具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させるとともに、自己の確立の大切さを自覚させ、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりの中で生きる自己の在り方生き方について主体的に考えさせる。 ・哲学や宗教、芸術における先哲の思想や活動を手掛かりとして、自己や自己を取り巻く社会の課題を考察させ、人生観・世界観・価値観について主体的に思索を深めることの大切さを自覚させる。 ・日本の伝統や文化、及びそれらの形成に影響を与えた先哲の活動や思想に触れながら、日本人としての自己認識をもたせるとともに自国の伝統や文化を尊重する態度を養い、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について思索を深めさせる。 ・近代文明の発展とそれに伴う社会変化の中で登場し展開されてきた様々な思想を手掛かりとして、人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との関わり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、社会の一員として生きる自己の課題として多面的・多角的に考察させ、よりよい国家や社会を作るために自らがどのように主体的に社会参加していくべきなのか思索を深めることの大切さを自覚させる。 ・生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的諸課題について探求する活動を通して、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。また、論理的思考力や表現力を身に付けさせる。 ・グループ交流を通じて、一人一人の人格が異なることを実感させるとともに、他者の意見を尊重しながら自分の思いを表現することの大切さを自覚させ、一人一人の人格を尊重する精神を養う。 						

評価の観点	評価の内容	評価の対象
関心・意欲・態度	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	観察、生徒との対話、グループ交流への取組、プリント、生徒による自己評価
思考・判断・表現	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多角的・多面的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	生徒との対話、グループ交流での発言、プリント、生徒による自己評価、考査問題
資料活用の技能	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	諸資料の読み取り、プリント、レポート、発表
知識・理解	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。	生徒との対話、考査問題

月	単元・項目	時数	単元を貫く目標	主な学習活動	評価方法
4 月	第1編 青年期の課題と人間の自覚 第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 青年期の意義 ①人間とは何か ②青年期の課題 第2節 青年期の課題 ①自立への課題 ②自己形成の課題	6	自己の課題と結びつけながら青年期の意義を考察し、自己の在り方や生き方について思索を深めることができ	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験や悩みを振り返ることを通して、現代社会における青年期の意義と課題を考察し、自己の在り方や生き方について思索を深める。 ・意見交流を通して、他者との関わりの中における自己の在り方生き方について思索を深める。 	行動観察 グループ交流 プリントへの記入 自己評価票 前期中間考査

5月	<p>第2章 人間としての自覚</p> <p>第1節 ギリシア思想</p> <p>①自然哲学とソフィスト</p> <p>②ソクラテス</p> <p>③プラトン</p> <p>④アリストテレス</p> <p>⑤ヘレニズム時代の思想</p> <p>第2節 キリスト教</p> <p>①古代ユダヤ教</p> <p>②イエス</p> <p>③キリスト教の誕生と展開</p>	17	<p>哲学や宗教や芸術における先哲の思想を手掛かりとして、現代社会や自己の課題を多面的・多角的に考察し、よりよい社会の在り方や自己の生き方について思索を深めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ギリシア思想の流れを概観しながら、世界の捉え方について視野を広げるとともに「善く生きる」ことについて考察し、自己の在り方生き方について思索を深める。 ・キリスト教思想の根本を理解し、現代社会の在り方や自己の生き方について思索を深める。 ・イスラム教思想の根本を理解し、相互扶助など共同体の在り方や人間相互のつながりについて、現代社会や自己の課題と結びつけて思索を深める。 ・ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の関係を理解し、現代社会の情勢と平和について多角的・多面的に考察する。 ・仏教の世界観や教えを手掛かりにして、人生における課題と結びつけながら自己の在り方生き方について思索を深める。 ・儒教の教えを手掛かりにして、望ましい人間関係の在り方や社会の在り方について、現代社会や自己の課題と結びつけて思索を深める。 ・芸術家の生き方や作品などを手掛かりにして、人生における芸術の意義について考察する。 	<p>行動観察</p> <p>グループ交流</p> <p>プリントへの記入</p> <p>自己評価票</p> <p>前期中間調査</p> <p>後期中間調査</p>
6月	<p>第3節 イスラーム</p> <p>第4節 仏教</p> <p>①仏教以前のインド思想</p> <p>②ブッダの教え</p> <p>③大乘仏教の成立</p> <p>第5節 中国思想</p> <p>①「道」の自覚</p> <p>②儒家思想の展開</p> <p>③老荘思想</p> <p>第6節 芸術と人生</p>	17			
7月	<p>第3章 日本人としての自覚</p> <p>第1節 古代日本人の思想</p> <p>①日本の風土と人々の生活</p> <p>②神との関わりと道徳観</p>	17	<p>現代の日本文化や思想が形成される過程を理解することで日本文化を見つめ直し、国際社会における日本の在り方や日本人としての生き方について思索を深めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文献や伝統文化、年中行事などから日本人の心情やものの見方・考え方を考察し、風土との関わりについて理解する。 ・日本における仏教や儒教の展開について歴史的視点から理解を深め、日本文化や日本人の思想にどのような影響を与えたか、日常生活や伝統文化と結びつけながら考察する。 ・庶民が文化や思想の形成に影響を与えるようになっていった経緯やその思想を理解し、民衆としての在り方生き方について、現代社会の諸課題と結びつけながら思索を深める。 ・西洋思想や文化を受容するに至った歴史的背景や日本の近代化に果たした役割について理解するとともに、それらの思想や文化が後世にどのような影響を与えたのか、現代社会の諸課題と結びつけながら考察する。 ・現代日本の文化や思想のルーツを理解するとともに日本文化を見つめ直し、国際社会における現代日本の在り方や、日本人としての在り方生き方について思索を深める。 	<p>行動観察</p> <p>グループ交流</p> <p>プリントへの記入</p> <p>自己評価票</p> <p>後期中間調査</p>
8月	<p>第2節 日本の仏教思想</p> <p>①仏教の受容</p> <p>②仏教の日本的展開</p> <p>③仏教と日本文化</p>	17			
9月	<p>第3節 近世日本の思想</p> <p>①儒教の受容と朱子学</p> <p>②日本陽明学</p> <p>③日本的儒学の形成</p> <p>④国学の形成</p> <p>⑤民衆の思想</p> <p>⑥幕末の思想</p>	17			
10月	<p>第4節 西洋思想の受容と展開</p> <p>①啓蒙思想と自由民権思想</p> <p>②キリスト教の受容</p> <p>③国家主義の台頭と社会主義思想</p> <p>④近代的自我の確立</p> <p>⑤近代日本哲学の成立と超国家主義</p> <p>⑥伝統の自覚と新たな課題</p>	17			

10月	<p>第2編 現代と倫理</p> <p>第1章 現代における人間の倫理</p> <p>第1節 人間の尊厳</p> <p>①ルネサンス</p> <p>②宗教改革</p> <p>③モラリスト</p> <p>第2節 科学・技術と人間</p> <p>①近代の自然観</p> <p>②新しい学問の方法</p> <p>第3節 民主社会と自由の実現</p> <p>①民主社会の形成</p> <p>②人格の尊厳</p> <p>③人倫</p> <p>第4節 社会と個人</p> <p>①個人と社会の調和</p> <p>②社会の進歩と改善</p> <p>③社会の変革</p> <p>④主体性の自覚</p> <p>第5節 人間への新たな問い</p> <p>①理性の深層への反省</p> <p>②言葉への反省</p> <p>③理性の働きへの反省</p> <p>④異質なもののまなざし</p> <p>第6節 社会参加と幸福</p> <p>①生命への畏敬と非暴力の思想</p> <p>②正義と福祉</p> <p>③社会の中の人間</p>	20	<p>社会変化の中で登場した種々の思想を手掛かりとして、現代に生きる人間が直面する諸課題について考察し、他者と共に生きる自己の生き方について主体的に思索を深めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人間性の回復に努めたヒューマニストや人間の生き方について考察したモラリストの活動や思想を手掛かりにして、人間の尊厳について思索を深める。 ・科学の発達に大きく貢献した先哲の思想を手掛かりにして科学的なものの見方や考え方を理解するとともに、科学技術の発達の意義と諸問題について、日常生活と結びつけながら考察する。 ・民主社会の形成の基礎となった先哲の思想を手掛かりにして、個人と社会との関係や、個人と国家や法との関係について考察する。 ・資本主義経済の発展や科学技術の発展に伴う社会変化の中で登場した種々の近代思想を手掛かりにして、現代社会の在り方について再考察し、他者や社会とどのように主体的に関わりながら生きていくのか思索を深める。 ・近代の人間中心主義が引き起こした様々な諸課題を理解するとともに、人間中心主義の反省に立って登場した近代思想を手掛かりにしながら人間の捉え方を再考察し、現代社会や自己の課題と結びつけながら、他者や社会との関わりについて思索を深める。 ・人間と社会との関係について考察した先哲の活動や思想を手掛かりにして、社会参加の意義と自己実現について思索を深める。 	<p>行動観察</p> <p>グループ交流</p> <p>プリントへの記入</p> <p>自己評価票</p> <p>後期中間考査</p> <p>年度末考査</p>
11月					
12月					
1月	<p>第2章 現代の諸課題と倫理</p> <p>第1節 生命の倫理</p> <p>第2節 環境の倫理</p> <p>第3節 家族の課題</p> <p>第4節 地域社会の課題</p> <p>第5節 高度情報化社会の課題</p> <p>第6節 文化と宗教の課題</p> <p>第7節 国際平和と人類の福祉の課題</p>	10	<p>既に学んだ学習内容や収集した諸資料を用いて、現代の倫理的諸課題について考察を深め、自分の言葉で発表することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発達や社会生活の変化、国際関係の変化によって生じた現代の倫理的課題について、既習の知識や収集した諸資料などを用いて考察を深め、社会の在り方や社会の一員としての自己の役割について思索を深める。 ・現代の倫理的諸課題のうち興味・関心をもって探究したいと思う項目を選択し、探求に必要な諸資料を収集してレポートをまとめ、発表する。 	<p>行動観察</p> <p>プリントへの記入</p> <p>調べ学習</p> <p>グループワーク</p> <p>レポート</p> <p>発表</p> <p>自己評価票</p> <p>年度末考査</p>
2月					
3月					

合計時間数 70 時間

単元指導計画

単元の名前

人間としての自覚

□単元の見積

人間の精神の営みである哲学や宗教や芸術の人生にもつ意義を理解し、先哲の思想や芸術家の作品を手掛かりにして人間の存在や価値に関わる基本的な課題を多面的・多角的に思索し、人間としての在り方生き方や社会の在り方について自ら考えを深め、主体的に自己形成に努める実践的意欲を高める。

□単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
<p>①自己の生き方や社会の在り方に関わる課題の解決につながるものとして、人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などに対する関心が高まっている。</p> <p>②人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義など人間の存在や価値に関わる基本的な課題を、自己の生き方や社会の在り方との関わりにおいて捉え、意欲的に探求しようとしている。</p> <p>③先哲の思想やその活動、芸術家とその作品を手掛かりとして、人間としての在り方生き方や社会の在り方について考えようとしている。</p>	<p>①自己の生き方や社会の在り方に関わる課題と哲学、宗教、芸術のもつ意義などをつなげて、人間の存在や価値に関わる基本的な課題を見いだしている。</p> <p>②先哲が課題として探究したことや、芸術家とその作品が問いかけているものを基に多面的・多角的に考察し、人間の存在や価値に関わる基本的な課題を思索して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</p> <p>③人間としての在り方生き方や社会の在り方について、先哲の思想やその活動、芸術家とその作品を手掛かりとして主体的かつ公正に判断して、その過程や結果をさまざまな方法で適切に表現している。</p>	<p>①人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などに関する諸資料を様々なメディアや他者の意見を通して収集している。</p> <p>②人間の存在や価値に関わる基本的な課題を探究する学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。</p> <p>③資料や他者の意見を参考にしながら、自己の生き方や社会の在り方に関する諸課題について多面的多角的に考察し、自分の考えを発表したり授業の感想をまとめたりする際に、それらを活用することができる。</p>	<p>①自己の生き方や社会の在り方に関わる課題が、多くの先哲によって探究された課題と通じていることに気付き、それが人間の存在や価値に関わる基本的な課題であることを理解している。</p> <p>②人間としての生き方在り方を探究した先哲の思想やその活動、芸術家やその作品が問いかけているものを自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。</p> <p>③社会の在り方を探求した先哲の思想やその活動、芸術家やその作品が問いかけているものを現代社会が抱えている課題とつなげて理解し、より良い社会の形成に生かす知識として身に付けている。</p>

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
第 一 次 （ 1 時 間 扱 い ）	<p>1-1 自然哲学とソフィスト</p> <p>【ねらい】ギリシア思想の流れを概観しながら世界や人間について思索する活動を通して、理性に基づいて思索すること（哲学）に対して興味をもたせる。</p> <p>【テーマ】「世界」とは？</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> 風や雷などの自然現象のメカニズムや宇宙の始まりを考察し、科学的（理性的）に世界を捉えようとする世界観と、身に付けている知識で説明できないものを神で説明しようとする世界観があることを理解する。 古代ギリシアの代表的な自然哲学者たちの世界の捉え方を理解する。 理性に基づき自己に関わるものごとについて思索する活動が人間特有のものであることを理解し、ものごとを思索する活動に対する興味を高める。 校則のない学校だったらどう生活するか交流し、人間の価値観が相対的であることを認識する。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ①世界の成り立ちについて興味・関心をもつて思索しようとしている。 ● ②代表的な自然哲学者達の世界観を理解している。 ①理性的なものごとを考察する活動が人間特有の活動であることを自覚し、思索する活動に対して意欲をもつ。 ②他者との意見交流を通して、人間の価値観について意欲的に考察しようとしている。
第 二 次 （ 1 時 間 扱 い ）	<p>1-2 ソクラテス</p> <p>【ねらい】ソクラテスの思想や生き方を手掛かりにして、自己の生き方が現代社会の課題と結びついていることを認識させ、集団の中における自己の生き方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】「よく生きる」とは？</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> 人権アンケート集計結果（一部抜粋）と結びつけながら衆愚政治について理解し、自分の生き方が社会の課題と結びついていることを認識する。 ソクラテスが登場した背景やソクラテスの思想について理解する。 ソクラテスの思想や生き方を手掛かりにして、自分の生き方や現代社会に生きる人々の生き方を考察し、意見交流を通して「よく生きる」ことについて思索を深める。 		●	○		<ul style="list-style-type: none"> ③資料から現代社会に生きる人々の価値観を読み取り、社会の在り方と関連付けて自己の生き方を考察しようとしている。 ○ ②「無知の知」や「知徳合一」など、ソクラテスの思想の基本的な考え方を理解している。 ②ソクラテスの思想を手掛かりにして、社会の在り方や自己の生き方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめるとともに、自分の言葉で発表することができる。
第 三 次 （ 1 時 間 扱 い ）	<p>1-3 プラトン</p> <p>【ねらい】プラトンの思想を手掛かりにしなが美や正義などの価値について考察させるとともに、自己の生き方や社会の在り方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】普遍的・絶対的な価値は存在する？</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> 物を盗む行為についての是非を交流することで、普遍的・絶対的な価値・真理について思索を深め、プラトンのイデア論を理解する。 ソクラテスの意思を継いだプラトンの思想について理解する。 プラトンの思想を手掛かりにして、より良い国家や社会の在り方について思索を深める。 	○		●		<ul style="list-style-type: none"> ②他者との意見交流を通して、人間の価値観について意欲的に考察し、授業理解につなげようとしている。 ○ ②プラトンの世界観や人間観、国家観などを理解している。 ②プラトンの思想を手掛かりにして、より良い社会の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。

第四次 (1時間扱い)	<p>1-4 アリストテレス</p> <p>【ねらい】アリストテレスの思想を手掛かりにしながら自己の生き方を振り返り、より良い自己の生き方や社会の在り方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】「よく生きる」ために必要なことって？</p>	○	●		<p>○ ③アリストテレスの世界観や人間観、国家観などを理解している。</p> <p>③アリストテレスの思想を手掛かりにしながら自己の生き方を振り返り、他者の意見を参考にしながら自己の課題について考察しようとしている。</p> <p>②アリストテレスの思想を手掛かりにして、より良い社会の在り方や他者と共に生きる自己の生き方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。</p>
第五次 (1時間扱い)	<p>1-5 ヘレニズム時代の思想</p> <p>【ねらい】時代の流れ(社会の変化)の中で人々の価値観や生き方が変化することを認識させるとともに、個人の幸福と社会全体の幸福との関係について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】幸せって何だろう？</p>	○	●		<p>○ ②自己の幸福を追求しようとしたヘレニズム時代の思想を理解している。</p> <p>①授業内容を基に、人間の価値観について意欲的に考察しようとしている。</p> <p>②他者と共に生きる自己の生き方や幸福について、ヘレニズム時代に登場した思想と結びつけながら思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめるとともに、自分の言葉で発表することができる。</p>
第六次 (1時間扱い)	<p>2-1 古代ユダヤ教</p> <p>【ねらい】イエスが登場した背景を古代ユダヤ教の特徴から理解させるとともに、人生における宗教の意義について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】イエスはなぜ殺された？</p>	○	●		<p>○ ①キリスト教文化が我々の生活にも影響を与えていることに気付き、キリスト教について関心をもつ。</p> <p>○ ①ユダヤ人の歴史を自己の人生と置き換えて捉え、ユダヤ教が成立した過程や、その特徴を理解している。</p> <p>②グループ活動に意欲的に参加し、学んだ内容を基に考察し、これからの学習につなげようとしている。</p>

第七次 (1時間扱い)	<p>2-2 イエス</p> <p>【ねらい】イエスの教えを手掛かりにしながら自己や現代社会の課題を考察させ、自己の生き方や社会の在り方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】本当に救われるべきは誰？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例を取り上げながら、ルールや決まりを破る行為の是非について考察し、グループ交流を行う。 当時のユダヤ人社会の在り方からイエスが登場した背景を考察し、律法に対するイエスの考え方や神の愛、隣人愛などのイエスの教えについて理解を深める。 本時のテーマに立ち返り、自己の生き方について思索を深める。 	○																					<ul style="list-style-type: none"> ②グループ活動に意欲的に参加し、他者の意見を参考にしながら与えられた課題について考察しようとしている。 ②自己の生き方や社会の在り方と結びつけながら、イエスが登場した背景やイエスの教えについて理解している。 ③イエスの教えを手掛かりにしながら自己のこれまでの生き方を振り返り、より良い生き方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。
第八次 (1時間扱い)	<p>2-3 キリスト教の誕生と展開</p> <p>【ねらい】キリスト教の成立と発展の過程を理解させるとともに、宗教の在り方や意義について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】イエスは自分の死後の世界をどう思うだろう？</p>	<ul style="list-style-type: none"> イエスを救世主と信じる人たちによって原始キリスト教が成立し、キリスト教が体系づけられていったことを理解する。 キリスト教に見られる贖罪と原罪の思想について理解し、人間の存在そのものや人生の価値について思索を深める。 ローマ帝国（政治）と結びついたことによってキリスト教会が発展して権力をもち、人々の価値観を縛り付けていったことを理解する。 本時のテーマに立ち返り、宗教の在り方や意義について思索を深める。 	○													<ul style="list-style-type: none"> ②キリスト教が成立した背景や、原始キリスト教における原罪や贖罪などの思想を理解している。 ②原罪思想を手掛かりにして、人間の存在そのものや人生の価値について意欲的に考察しようとしている ②キリスト教が発展していった背景や、中世ヨーロッパの社会情勢を、資料から読み取ることができる。 ③授業内容を基にして、宗教の在り方やその意義、個人の信仰の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。 								
第九次 (1時間扱い)	<p>3-1 イスラーム(1)</p> <p>【ねらい】イスラームの教えを手掛かりにしながら自己や現代社会の課題を考察させ、自己の生き方や社会の在り方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】イスラームについてどう思う？</p>	<ul style="list-style-type: none"> イスラームについて知っている知識を発表し、ムスリムの生活が信仰と密接に結びついていることを理解する。 9.11（アメリカ同時多発テロ）やイスラーム国など、イスラームに関する事件を取り上げ、イスラームのイメージについて考察する。 イスラームが成立した背景を、アラビア半島の自然環境や当時のメッカの社会情勢から考察し、イスラームの根本にある精神を理解する。 本時のテーマに立ち返り、イスラームに対するイメージの変化を振り返り、イスラーム世界と現代の日本社会およびムスリムと日本人の生き方と比較をしながら、社会の在り方や自己の生き方について思索を深める。 	○													<ul style="list-style-type: none"> ①意欲を持って授業に参加し、これからの学習に対して興味・関心をもつ。 ①新聞やニュースなどで取り上げられているイスラームに関する時事問題から、イスラームについて考察することができる。 ③イスラームの成立過程や教えの根本にある精神を、当時のアラビア半島の情勢を基に理解している。 ③イスラームに対するイメージを見直すとともに、イスラームの精神を手掛かりにして相互扶助などの共同体の在り方や自己の生き方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。 								

第十次 (1時間扱い)	<p>3-2 イスラーム(2)</p> <p>【ねらい】ユダヤ教・キリスト教・イスラームの関係やそれらに関わる歴史から現代の国際情勢を多角的・多面的に理解させ、国際平和を実現するための社会の在り方や自己の生き方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】本当に悪いのは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の知識を基に、三つの宗教の関係を理解する。 イスラエルの建国に至るまでの歴史や現代の中東の勢力図から、中東戦争などの宗教紛争の原因や9.11(アメリカ同時多発テロ)が起きた背景を考察する。 パレスチナ難民に関する資料を参考にしながら本時のテーマについて振り返り、問題解決の手段をグループで考察する。 				○	<ul style="list-style-type: none"> ③中東における地域紛争を考察するための基礎的知識を理解している。 ③諸資料を読み取り、中東戦争などの宗教紛争や9.11が起きた背景について考察することができる。 ③グループ活動に意欲的に参加し、学んだ内容や他者の意見を参考にしながら、国際平和を実現するための社会や個人の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめるとともに、自分の言葉で発表することができる。
第十一次 (1時間扱い)	<p>4-1 仏教以前のインド思想</p> <p>【ねらい】古代インド思想を手掛かりにしながら生や死について考察させ、人生、世界について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】人は死んだ後、どうなるだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> バラモンが社会的地位を確立した背景や、カースト制度が成立した背景、及びその後の歴史に与えた影響について理解する。 他者との交流を通して死後の世界について考察し、自己の死生観と結びつけながらバラモン教について理解を深める。 ウパニシャッド哲学で説かれる人間観や世界観を手掛かりにしながら、自己の生き方について思索を深める。 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ①人権や社会の在り方に関わる問題と結びつけながらカースト制度を理解している。 ①他者との交流を通して、死について思索を深め、これからの学習に対して関心をもつ。 ②ウパニシャッド哲学を手掛かりにしながら、世界(宇宙・自然)の中における人間の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。
第十二次 (1時間扱い)	<p>4-2 ブッダの教え</p> <p>【ねらい】仏教の世界観や人生観を手掛かりにしながら自己の課題について考察させ、自己の生き方や社会の在り方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】人生とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の経験を振り返りながら人生における不安や苦について考察し、グループで交流するとともにその原因について考察する。 自己の世界観や人生観と重ね合わせながら、仏教の世界観・人生観を理解する。 仏教の世界観や人生観を手掛かりにしながら、自己の生き方や生命の大切さについて思索を深める。 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ①グループ活動に意欲的に参加し、他者との意見交流を通して人生について考察し、本時の授業に対して興味・関心をもつ。 ②縁起や四法印、四諦、慈悲などに代表される仏教思想について、自己の課題と重ね合わせながら理解している。 ②仏教思想を手掛かりにして、不安や苦しみ、生命に対する畏敬の念などの人生における課題と重ね合わせながら、自己の生き方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。

<p>第十三次 (1時間扱い)</p>	<p>4-3 大乘仏教の成立</p> <p>【ねらい】 大乘仏教と小乗仏教の比較・考察を通して宗教の在り方や関わり方について思索を深めさせる。また、日本人の宗教観や日本における仏教文化に対して興味・関心をもたせる。</p> <p>【テーマ】 日本の仏教って？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の日常生活と重ね合わせながら伝統的な仏教の在り方について考察し、大乘仏教が成立した背景や大乘仏教と小乗仏教の違いについて理解を深める。 ・他人による救済が認められるか否かについてグループで交流し、宗教の在り方や関わり方について思索を深める。 ・授業内容を基に、日本に伝わった仏教はどちらの方が判断すると共に、日本人の思想や文化の形成に大きな影響を与えたことを理解する。 	<p>○</p>	<p>●</p>	<p>○</p>	<p>○ ①大乘仏教が成立した背景や、小乗仏教との違いについて理解している。</p> <p>③グループ活動に意欲的に参加し、他者との意見交流を通して宗教の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。</p> <p>①授業内容を理解した上で日本の仏教について考察し、判断することができる。 (※第3章 第2節 「日本の仏教思想」で学ぶ内容に対して興味・関心をもつ)</p>
<p>第十四次 (1時間扱い)</p>	<p>5-1 「道」の自覚</p> <p>【ねらい】 孔子の思想を手掛かりにしなが、自己や現代社会の課題と結びつけて人間関係の在り方や社会の在り方について思索を深める。</p> <p>【テーマ】 社会秩序を保つためには？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「最近の若者は・・・と言われることについてどう感じるか?」「先輩や後輩についてどう思っているか?」「年功序列社会と実力主義社会とどちらがいいか?」といった問いかけに対してグループ交流を行う。 ・諸子百家が登場した背景について、周王朝末期(春秋・戦国時代)の時代背景から理解する。 ・平和な社会を構築するためには何が必要なかを考察しながら、孔子の思想について理解を深める。 ・孔子の思想を手掛かりにしなが、自己や現代社会の課題を考察し、自己の生き方や社会の在り方について思索を深める。 	<p>○</p>	<p>●</p>	<p>○</p>	<p>①グループ活動に意欲的に参加し、他者との意見交流を通して人間関係の在り方について考察し、本時の授業に対して興味・関心をもつ。</p> <p>○ ②自己の生き方や社会の在り方と結びつけながら、諸子百家が登場した背景やそれらの思想について理解している。</p> <p>○ ③自己や社会の課題と結びつけながら、仁や礼に基づく人間関係の在り方や社会の在り方について説いた孔子の思想を理解している。</p> <p>③孔子の思想を手掛かりにしなが、自己や現代社会の課題を考察し、自己の生き方や社会の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。</p>

第十五次 (1時間扱い)	<p>5-2 儒家思想の展開</p> <p>【ねらい】 孟子や荀子の思想を手掛かりにして、自己の人生や人類の歴史を振り返りながら人間の本性について考察させ、自己の生き方や社会の在り方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】 人間の本性は善？それとも悪？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己のこれまでの行動や、行動する際の心の在り方を振り返りながら、人間の本質は「善」か「悪」かグループ交流を行う。 ・人間の様々な行動を例に取り上げながら、孟子や荀子の思想について理解を深める。 ・朱子学や陽明学について理解するとともに、中国や日本で儒学が国学とされた背景について考察する。 ・孟子や荀子の思想を手掛かりにしなが、自己や現代社会の課題を考察し、人間の生き方や社会の在り方について思索を深める。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ○ ①グループ活動に意欲的に参加し、他者との意見交流を通して人間の本質について考察し、本時の授業に対して興味・関心をもつ。 ○ ②人間の本質について考察し、人間関係の在り方教育の重要性を説いた孟子や荀子の思想を理解している。 ○ ①儒学の思想や展開について理解した上で、日本との関わりについて考察している。 (※第3章 第3節 「近世日本の思想」で学ぶ内容に対して興味・関心をもつ。) ○ ③孟子や荀子の思想を手掛かりにしなが、人間や現代社会の課題を考察し、自己の生き方や社会の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。
第十六次 (1時間扱い)	<p>5-3 老荘思想</p> <p>【ねらい】 老荘思想で理想とされる人間の生き方や社会の在り方と比較しながら現代社会について考察させ、自己の生き方や社会の在り方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】 理想的な生き方とは？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原始的な生活、文明的な生活を比較しながらそのメリット・デメリットを考察し、豊かな人生、豊かな社会とはどのようなものであるかグループ交流を行う。 ・儒家思想や法家思想と比較しながら、老荘思想について理解を深める。 ・老荘思想を手掛かりにしなが、自己や現代社会の課題を考察し、人間の生き方や社会の在り方について思索を深める。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ○ ①グループ活動に意欲的に参加し、他者との意見交流を通して人間の生き方や社会の在り方について考察し、本時の授業に対して興味・関心をもつ。 ○ ②中国思想に関する既習の知識を基にしなが、老荘思想が説く「道」について考察し、理解している。 ○ ③老荘思想を手掛かりにしなが、現代文明が抱える課題や現代社会に生きる人間の課題を考察し、自己の生き方や社会の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。
第十七次 (1時間扱い)	<p>6 芸術と人生</p> <p>【ねらい】 芸術家の生き方や作品を手掛かりにして、自己の人生観や価値観と結びつけながら人生における芸術の意義について考察させ、自己の生き方について思索を深めさせる。</p> <p>【テーマ】 あなたの人生は豊かですか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、有名な芸術作品やその作者を当てるクイズを行い、その作品が作られた背景やその作品に込められた思いを考察する。 ・グループ交流で考察した代表的芸術作品に関する解説を聞きなが、それらの芸術作品に関して理解を深める。 ・自己の日常生活と結びつけなが、人生における芸術の意義について考察し、人生の豊かさや芸術との関わり方について思索を深める。 	○				<ul style="list-style-type: none"> ○ ①グループ活動に意欲的に参加し、本時の授業に対して興味・関心をもつ。 ○ ②芸術家やその作品が問いかけているものを自己の課題とつなげて理解している。 ○ ③自己の日常生活を振り返りなが、芸術と人生との繋がりや豊かな人生の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。

※「評価規準等」の欄の○印の番号は、「□単元の評価規準」における各観点別の評価規準の番号と一致している。

学習指導案

日時	平成〇年〇月〇日(〇)第〇限	指導クラス	2年〇〇科(男子〇名、女子〇名)	指導者	〇〇 〇〇
教科(科目)	公民(倫理)	単元名	第2章:人間としての自覚 第2節:キリスト教 2:イエス(7時間目/17時間)		
教科書	『高等倫理』(実教出版)				
本時の主題	イエス				
本時の目標	イエスの教えを手掛かりにしながら自己や現代社会の課題を考察させ、自己の生き方や社会の在り方について思索を深めさせる。				
本時のテーマ	本当に救われるべきは誰?				
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方や社会の在り方と結びつけながら、イエスが登場した背景やイエスの教えについて理解している。【知識・理解】 ・グループ交流における他者の意見やイエスの教えを手掛かりにしながら自己や現代社会の課題を考察し、よりよい生き方や社会の在り方について思索を深め、その過程や結果を適切にプリントにまとめている。【思考・判断・表現】 				
指導の内容・ねらい	学習活動	指導上の留意点・観点別評価			
<p>導入</p> <p>前時の振り返り</p> <p>個人の価値観の表現</p> <p>他者の価値観の理解・意見の統合</p> <p>本時のテーマの提示</p>	<div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><Question 1></p> <p>イエスはなぜ殺された?(前時のテーマ)</p> <p>○前時に学習したユダヤ教の特徴について簡単に復習する。</p> <p>○紹介された生徒の意見を参考にしながらイエスが処刑された理由をイエスとユダヤ教の関係から理解する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><Question 2></p> <p>①「盗み」や「殺人」などを行う人は罪人だろうか?</p> <p>②次のa) b)のうち、どちらが善い行為だろうか?</p> <p style="padding-left: 20px;">a) 豊かな人が威張って100万円を寄付した。</p> <p style="padding-left: 20px;">b) 貧しい人が申し訳なさそうに500円を寄付した。</p> </div> <p>○自分の意見とその理由をプリントに記入する。</p> <p>【グループ交流】</p> <p>○グループに分かれ、意見交流を行う。</p> <p>○グループ交流の後、グループで出てきた意見をまとめ、代表者がクラス全体で発表する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>※生徒から出てくると予想される意見</p> <p>①どんな理由があっても、罪は罪。⇔時と場合によっては仕方がない。</p> <p>②金額が多い方が貰う側は嬉しい。⇔気持ちがかもっている方が嬉しい。</p> </div> <p>※Q2-①②で出てきた意見については、授業の最後に行う振り返りでも用いる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><本時のテーマ></p> <p>本当に救われるべきは誰?</p> </div> <p>○提示された本時のテーマをプリントに記入する。</p>	<p>○前時のテーマを板書した後、前時の最後に回収したプリントから数名の意見を紹介し、プリントを返却する。</p> <p>○イエスがユダヤ教徒であることを強調し、イエスがキリスト教の開祖でないことに留意させる。</p> <p>○理由については、個々の価値観で自由に表現させる。</p> <p>○全員に意見発表する機会を与えるために、グループ交流を行う。</p> <p>○グループ内でリーダーと発表係を決めさせ、進行はリーダーが行い、発表係がグループでまとめた意見を発表することに留意させる。</p> <p>○タイムキーパーは教師が行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(評価方法)</p> <p>グループ交流に意欲的に参加し、他者の意見も尊重しながら、グループで意見をまとめることができる。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p> </div> <p>○この場面では、授業に対する興味・関心をもたせるために、本時のテーマを投げかけるだけに留める。</p>			

<p>展開</p>	<p>考察・意見交流を通じての内容理解</p>	<p><Question 3> 決まりを守ることは正しいこと？</p> <p>○決まりを守る・破るという行為の是非について、複数の事例から考察し、自分の意見を発表する。</p> <p>例1) 自分を表現するために校則に反した制服を着る。 例2) 友人の悩みを聞くために学校を休む。 例3) 学校に行くのが面倒だったので、学校を休む。 例4) 我が子が飢え死にしそうだったからパンを盗む。 例5) 安息日なので急患の患者が運ばれても診察しない。 例5) 末期の癌で苦しんでいる弟から頼まれて安楽死させた。</p> <p>○当時のユダヤ人社会が選民思想に偏り、形式的な律法主義に陥っていった一方で、律法を守りえない人々が社会から排除されていたことを理解した上で、イエスが登場した背景を理解する。</p> <p>○イエスは、行動そのものより、行動の基となる心の在り方を重視し、社会的弱者がイエスに救いを求めたことを理解する。</p>	<p>○生徒とのやりとりを中心にして授業を展開することに留意する。</p> <p>○個々の価値観で自由に発言させる。</p> <p>○生徒が考察しやすいように、身近な事例や文学作品などを例として取り上げ、考えさせる。</p> <p>○考察・意見交流を通じて、当時のユダヤ人社会やイエスが登場した背景、及びイエスが重視したことについて理解させる。</p> <p>(評価方法) 前時に学んだ内容と繋げて、イエスが登場した背景や、イエスの教えについて理解している。【知識・理解】</p>
<p>まとめ</p>	<p>生き方や社会の在り方についての考察</p>	<p><本時のテーマ> 本当に救われるべきは誰？</p> <p>○本時のテーマを振り返り、授業の感想・反省をプリントに記入する。</p> <p>○プリントを提出する。</p> <p>※生徒に記入してほしい内容の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動のもとになる心の在り方は確かに大事だと思う。自分自身の行動も振り返ってみたい。 ・決まりを守ることができる人は生活に余裕がある人。世の中にはそうじゃない人も沢山いると思う。そのような人々が経済的にも精神的にも救われる世の中にしていかない限り、法律的に裁くだけでは根本的な解決にはならない。等 	<p>○本時のテーマを再び投げかけ、授業の感想・反省を記入させる。</p> <p>○Q2-①②を振り返り、自身の考えが授業を通してどのように変化したかについても注目させる。</p> <p>○イエスが当時のユダヤ人社会に訴えかけていたことが、現代社会においても通じるところはないかどうか問いかけ、考えさせる。</p> <p>※従業を通して気付いて欲しかった点に触れてある感想を、次回の授業の最初で紹介する。</p> <p>(評価方法) テーマに対する自分の考えを、自己の生き方や現代社会の課題と結びつけながら、自分の言葉で適切に表現することができる。【思考・判断・表現】</p>